

新たしき御代

市川 浩

五月一日皇太子徳仁親王殿下踐祚し給ひ、年號も令和と改る。各種領收書などを含む文書發行の日附は殆どが令和表記にて、廣く巷間に滲透せるものゝ如し。その理由を求むるに、出典萬葉集と明示あり、その「令月風和」即ち令しき月つひをはに風和なほむの義一般の理解進みたるにこそよりけめ。これ我が國民の文化的水準の高さを示すものなり。然るに發表當初には、出典を無視し、令和を單なる漢字熟語として、恣意的讀解、批判の説多く、萬が一にもこれらに雷同して、萬葉集など漢字ばかりの歌集など難しなど言ふばかりならましかば、過ぐる慶長十九年豊臣家菩提寺方廣寺再建の鐘銘事件にも寄よそふべく、諸外國よりの批判も加はり、面目を失墜するの國難を招くにも至らまし。

かくて令和の御代はめでたう始り、皇居水田の御田植に續き、最初の月末には米國大統領を國賓として御迎へありて、世界にもこよなき御披露目となりぬ。この兩件、傳統の繼承と世界的視野の涵養との兩立を象徴し、當に新しき御代の根本命題たるべし。

一方この五月の氣候は、既に眞夏の兆候を示し、各地、特に北海道の高溫化が話題となるなど、地球溫暖化の加速を實感せしむ。東日本大震災による原發事故を契機に、我が國電力需要の三分の一を擔ひぬる原子力發電は、さしたる科學的討議を経ずして操業を中止し、その殆どを舊式の化石燃料に置換して八年、地球溫暖化防止の後進國に轉落しつゝ。しかも昨年の如く原油價格昂騰せば、忽ち貿易收支黒字の大幅縮小を招く。加之、國內總生産、特に鐵鋼生産量や、大學の評価など重要指標も多きが、嘗ての世界の一二位より遙か下位への轉落日立てり。

かゝる問題に大方の識者、今後の重點は高度情報社會への對應なりとし、小學校から電子機器のプログラム必修化の動き加速しつゝあり。然れど我々の世代プログラミングとは、電子計算機への命令を一定の「文法」により記述するものと理解しをり、米國の早熟少年が自作のプログラムをフィラデルフィアにあるさるべき機關に送り、その成否を競ふとも聞きき。これは論理的訓練としては極めて有用に思へども、最近の「プログラミング」は、寧ろ最後の「デザインの」部分を、既存の候補より選擇して、規定の領域に移動せしめて完成する操作を言ふものゝ如し。

茲に至りて感あり。漢字傳來以降外來文化の吸収は我が國文化の大いなる主題にして、江戸末期までは漢土の文化吸収が中心となり、子等には漢字の讀み書きを主として學ばしめ、内容の理解は二の次として、四書五經の名文や漢詩の名作を暗記せしめたり。維新後は洋學主となるも、中學校の英語は少くとも英國の *National Reader* を範とせり。戦後暗記の非効率性頻りに喧傳せられ、有用性を重んじて小學校英語必修化も専ら日常會話を主にすと云々。

傳統の繼承は改正教育基本法の前書きに明記ありと雖も、傳統には廣く日本民族としての傳統に加へ、個人各々の家や生業に關はるもの無視すべからず。即ち繼承すべき傳統は人夫々によりて、千差萬別なれば、義務教育に於ては、和漢洋の傳統的文化に觸れ、その繼承の意味を理解すること肝要なり。

(令和元年五月三十一日受附)